

慶應義塾大学藝文学会シンポジウム

HipHopで再考する詩とライム

～Zeebra氏を迎えて～



慶應義塾大学三田キャンパス 東館8階ホール

12月17日（水）16：30～18：30（16：00開場）

Zeebra （HipHopアクティヴィスト）

合山林太郎 （国文学）

高橋 勇 （英文学）

糸川麻里生 （独文学）

詩が社会からやや縁遠くなった今日、Rapを聴くことで、「韻文」というものに触れる若者の数は年々増えています。また、他方、Rapを「芸術」としては扱わず、ゲームや社交の道具として「用いて」いるHipHop文化は、新しい文化でありながら、同時に、「詩（韻文）」の本来のありようを蘇らせてもいるように思われます。今回のシンポでは、日本語ラップの世界を独自の感性で牽引されてきたZEEBRAさんに、イギリス、ドイツ、日本などの古典文学研究に従事する研究者が、様々な観点から問いかけ、議論しあいながら、日本におけるRapの歴史と文学研究がいかに切り結び得るかについて考えてゆきます。

主催・藝文学会 協力・慶應義塾大学アート・センター **入場無料 & 要申込**